

San-iku 通信

社会福祉法人賛育会の広報誌「さんいくつうしん」

TAKE FREE



清風園の
地域支援活動
にこにこ
清風食堂



REPORT

Vol. **48**
2026 WINTER

特集 地域支援活動 にこにこ清風食堂

- 賛育会の取り組み: 「人を大切にする介護」を、未来へつなぐために
- SEAP2025(調査研究・実践事例発表会)を開催しました





2016年
6月～
にこにこ
清風食堂



子どもたちの遊び場・居場所
として、そして食事の場として
の世代を超えた交流の場

コロナ禍前の、清風園での
にぎやかな食事風景

特集
REPORT

地域支援活動 にこにこ清風食堂

町田市で初めてのこども食堂として誕生した「にこにこ清風食堂」は、
コロナ禍を乗り越え、「食」を通して地域との輪を育んでいます。

清風園（東京都 町田市）

地域の高齢者を支える場として歩んできた清風園。この活動のきっかけは、地域の民生委員の方の「地域で困っているのは、高齢者だけでなく、居場所がない子どもたちもいるんだよ」という声からでした。そして、清風園が子どもたちのための新しい取り組みとして、2016年6月に誕生したのが、町田市初のこども食堂「にこにこ清風食堂」です。

にこにこ清風食堂は、毎月2回の会食型で運営を開始。近隣大学の学生ボランティアの支えもあり、子どもたちは思いっきり遊んだ後、グループホームの入居者の皆さんと交流し、一緒に食事をしたり勉強を見てもらったりと、世代を超えた温かな時間を過ごしていました。

■コロナ禍で、新たに広がった地域連携のかたち

しかし、2020年3月、新型コロナウイルス感染症の影響で

活動は休止。その後も休止と再開を繰り返し、参加者も激減しました。この苦境の中、私たちは、「確実に食事を届ける方法」を模索しました。近隣中学校の校長先生の協力を得て駐車場の活用が決定。併せてフードドライブ活動も行いうことになりました。

そして、2021年3月からは地域全体へ広げ、月1回のお弁当販売を行う「にこにこ清風ワゴン&フードドライブ」として再出発することができました。

学校運営協議会による、近隣の小中学校全生徒へのチラシ配布で周知を広げるなど、より地域の実情に合わせた形へと転換。現在は、社会福祉協議会との連携でのフードドライブの実施に加え、食材や運営費は、地域の方々・企業・団体からのご寄付、運営全般をボランティアの皆さまの献身的な支えによって、活動を継続しています。

2021年
3月～
にこにこ
清風ワゴン
開催

にこにこ
清風ワゴン

再出発!

FOOD
DRIVE

かたちを変えて、お弁当へ。
地域からの食材提供や、
ボランティアの皆さまに
支えられ活動をしています。

現在は、お弁当形式で
開催しています!

だれもが楽しめる食の支援

摂食嚥下障害を持つ、お子さん
向けのお弁当を2024年に実現。

■「食べる喜び」を届ける、新たな食の支援

2024年には、清風園が高齢者支援で培った「噛む・飲み込む力が弱い方向けの調理ノウハウ」を活かし、同様の悩みを持つお子さん向けのお弁当作りに挑戦しました。5月に、ミキサー食を必要とするお子さんへの提供を実現。長年の専門技術を、地域の子どもたちの安心と笑顔に繋げています。

■地域に根差し、広がり続ける交流の輪

現在は毎回80食を用意していますが、販売前に行列ができるほど地域に定着しています。児童館の子どもたちの利用や、清風園ロビーでの絵画展示など交流も多彩になり、ボランティアからは「活動が楽しい」との声が溢れています。職員採用面接でもこの活動が話題に上るほど認知が広がり、子どもたちとの関わりを、地域の安全網づくりに繋げる動きも生まれました。また、団体や学生の見学も広く受け入れています。こうした真摯な取り組みが認められ、2021年には天皇陛下より御下賜金(ごかしきん)を拝受。2023年には東京都地域公益活動推進協議会にて「コロナ禍で創意工夫している地域公益活動」として事例掲載されました。

これからも清風園は食を通じた支援で、地域との絆をより大きく、温かな交流の輪へと育てていきます。

応援よろしくお願いたします!

11年目の挑戦。おいしいを未来へ。 「食の応援団」プロジェクト

2026年6月、にこにこ清風食堂は11年目を迎えます。コロナ禍も物価高も、地域の皆さまと共に知恵を出し合い、乗り越えてきた10年間でした。これからも「地域に寄り添う応援団」であり続けるために、さらなる活動の継続と充実を目指し、私たちはクラウドファンディングという新たな挑戦を始めます。

今回の目標はお弁当に「旬の果物」を添えること。物価高でも季節の彩りと栄養、そして何より食べる喜びを届けたい。子どもたちの笑顔を守る挑戦に、ぜひお力をお貸しください。

クラウドファンディング[CAMPFIRE]で
3月1日から本プロジェクトの募集を
開始します! [くわしくはこちら](#)



にこにこ清風食堂(清風園)

開催日時: 毎月第3木曜日 17:30～
開催場所: 町田市立金井中学校の駐車場
お問い合わせ: 清風園

TEL: 042-735-3000

E-mail: seifu@san-ikukai.or.jp

にこにこ清風食堂WEBサイト

<https://www.san-ikukai.or.jp/seifu-en/nikoniko-seifu-syokudo/>





人を想う力が、地域を支え、人を支える。

「人があって、自分がある」。群馬県高崎市で育った湯本さんは、幼い頃に刻まれたこの教えを胸に、介護の現場で実践を続けています。家業の手伝いや病院勤務を経て介護の道へ。多様な経験の積み重ねが、ご利用者一人ひとりの人生に丁寧に寄り添う姿勢をかたちづくってきました。

現在は介護係長として、現場に近い視点で職員を支える役割を担っています。日々の小さな変化に気づき、声をかけ、支え合う。その積み重ねが職員の安心を生み、ご利用者への安定したケアへと還元されています。生産性向上の取り組みでは、介護の機械化の可能性と向き合いながら、「人が主役である介護」を大切に、機械化で生まれた時間を、利用者の思いや歴史に耳を傾けるために充てています。

その実践の根底にあるのは、人が人を思いやる支援への実感です。長年疎遠だったご利用者と家族をつなぎ、最期に「ありがとう」と託された経験は、「この仕事が人の人生に

深く関わる仕事」だと教えてくれたと振り返ります。昨年10月に初孫が誕生し、命を見守る尊さを私生活でもあらためて実感するようになったそうです。

今、豊野清風園の職員が想いを形にする原動力は、地域や支援者の方々の温かなまなざしです。そこから生まれる「人を想う力」は、今日も地域へと広がっています。湯本さんは語ります。「介護は制度や仕組みだけでなく、人の手と心、そして地域の力が重なり合って初めて、ご利用者の“その人らしい人生”を守ることができるのだと思います」。

若い職員が迷う時には、かつて自身が感じた「人生に携わる仕事の喜びと重み」を、自らの経験とともに伝えていきたいという。その積み重ねが、次の世代の介護を育み、地域の安心へ繋がっていく。大きな水災も乗り越えてきた豊野清風園は、これからも「いざという時に頼れる場所」であり、人と人とのつながりを大切にしながら、希望を紡ぐ場所であり続けます。

(取材・文 法人事務局総務部)



豊野事業所・長野県長野市

しゅうらくげんかい

チームリーダー

とよの福向チーム集楽元快 清水厚子さん

地域活動『幸腹弁当・幸腹食堂』の活動を力強く支えてくださっています！



幸腹食堂での
清水さん

2019年、台風で被災した豊野地区。復興支援の最中、清水さんとの出会いがありました。支援を通じ深まった絆と、想いを伺いました。



地域の復興を支えてくれた緑のビブス

もう6年なのか、まだ6年なのか…。令和元年東日本台風で町は3m以上の浸水被害を受けました。賛育会の施設も被災。そんな中で、賛育会の職員さんは「地域の復興なくして賛育会の復興なし」を合言葉に緑のビブスで地域に出て、物資提供、居場所支援、泥だしなど被災者を支えてくださいました。施設と地域の信頼関係はあっても個人的な係わりが薄かった中、復興を通じ互いの理解が進み、絆も生まれました。この絆は復興過程で地域課題の解決に向かい、幸腹弁当や幸腹食堂に繋がりました。復興を支えてくれた緑のビブスの精神が、今は地域福祉の大切な支えとなっています。

「人を大切にする介護」を、未来へつなぐために —「生産性向上推進プロジェクト」 3つの分科会が動き出しました—

Vol.02



職員もご利用者も安心して豊かに過ごせる、「人を大切にする介護」の実現に向け、未来への導線づくりが始まりました。

前号では、賛育会が大切にしてきた「人を大切にする介護」を未来へつなぐため、法人全体で取り組む「生産性向上推進プロジェクト」をご紹介しました。今号では、そのプロジェクトがどのように具体化し始めているのか、3つの分科会の動きをお伝えします。

■ プロジェクトが始めた“現場からの見直し”

プロジェクト発足にあたり、全施設で課題のヒアリングや機器調査を行いました。そこで浮かび上がったのは、夜勤の負担や記録業務の多さ、情報共有の壁、そして人材不足といった現場が抱える複合的な課題です。

会議では「機器の導入が目的ではなく、導入後に“使われ続けることこそが大事」という意見が多く挙がり、プロジェクトの方針は“現場の課題に合った改善へ”に定まりました。

■ 3つの分科会が描く未来

① 機器情報分科会

見守り支援機器、ナースコール、受信端末、インカムなど、施設ごとの課題に合った機器を選ぶための「機器選定表」を作成しました。どの機器が、どの課題を解決できるのかを明確にし、現場が迷わず選べる仕組みづくりを進めています。

② 記録システム分科会

記録業務の負担を減らし、ケアに使える時間を増やすため、

記録ソフトとICT機器の連動方法を検証。複数のシステムの情報収集を行い、記録が“現場を助けるデータ”になる仕組みを探っています。

③ 評価分科会

導入した機器の効果を検証し、導入前のデータ項目を標準化。これから導入予定の施設を支援する体制づくりを進めています。「導入して終わり」ではなく、定着を支える役割を担います。

■ 検証施設から広がる未来

今後は、機器導入を予定している施設を“検証施設”とし、導入から運用・定着までプロジェクトをサポートします。そこで得たノウハウを法人全体へ展開・共有し、すべての施設で働きやすい環境づくりに生かしていきます。

■ 一歩ずつ、着実に

短期的には夜勤負担の軽減や事故リスクの減少、情報共有の改善が期待されます。中・長期的には、職員育成内容の充実やケアの標準化、時間外労働の削減、新しい働き方モデルの実現が見込まれています。

賛育会はこれからも、「人を大切にする介護」を未来へ受け渡すため、生産性向上とケアの質の両立に挑戦していきます。皆さまにも、引き続き温かい応援をいただきましたら幸いです。

(生産性向上推進プロジェクト 実行責任者 森田 裕康)

“現場の課題に合った改善へ”
生産性向上推進プロジェクトの
3つの分科会



機器情報分科会



「機器選定表」を作成。
現場が最適なツールを
選べる仕組みを構築。

記録システム分科会



ソフトとICT機器の連動を検証。
記録負担の軽減のための
情報収集の仕組みを探る。

評価分科会



導入機器の効果検証と
指標の標準化を行い、
定着を支える役割へ。

SEAP2025を開催しました

～調査研究・実践事例発表会～

この発表会の歴史は、1961年に始まった「賛育会学会」にまで遡ります。創立70周年の懸賞論文を経て、現在はプレゼンテーション形式の発表会「SEAP」へと形を変え、大切に受け継がれてきました。この目的は各現場の優れた取り組みを、法人全体で共有、実践レベルを高めること。日々の課題に向き合い、より良いケアを探索することは、賛育会の理念「隣人愛」の実践そのものです。知恵を分かち合うことが、地域社会への奉仕を広げる推進力となります。今年度は、各地域の事業所から工夫の詰まった9作品がエントリーし、3施設が受賞しました。

最優秀賞

サマリア賞
からし種賞

目の前の人とともに生きる『かけがえのない“今”』

～ 私たちが看取りに自信を持つことができたワケ～

はなみずきホーム 斎藤 理奈・桑原 愛・鳴島 央也

●審査員コメント

- 看取りの本質とは何か真摯に捉えながら、「本人・家族・職員の3者が悔いなく満足できる」正に“三方よし”の考え方はとても共感できるものでした。プレゼンの資料も大変見やすく、ご利用者・ご家族その人のニーズに添う企画実行に向けた様子等、職員の方々の熱い思いが伝わる内容でした。(川島審査員)
- この取り組みは「看取りケア」に限らず、全てに通じる「賛育会のモデル」として法人のみならず、広く地域に発信し、地域福祉の向上に貢献されることを期待しています。(秋田審査員)



最優秀賞を受賞した、はなみずきホーム



審査員
コメント
の様子

優秀賞

その人として

生ききるためのケア

～ 重度化予防ケアの取り組み・実践～

東海清風園 鷲山 哲哉・松井 泉美

●審査員コメント

- ご利用者に良かれと思った手助けが、ご利用者の力を弱らせ逆効果だったという気づきがとても素晴らしかったです。その上での目標設定で、重症化予防ケアに取り組み、具体的な事例の提示もわかりやすかったです。(大森審査員)
- きちんと寝て、座って、立つ、という、基本的なケア技術の標準化に取り組み、全職員参加で本人らしさを取り戻す試み、心に響きました。(小笹審査員)



審査員による質疑応答の様子



優秀賞を受賞した東海清風園

優秀賞

多死社会における特養ホームの役割

～ 看取りケアの現状と課題、今後の展望について考える～

第二清風園 奥津 亜季・石引 麻里子・高倉 美咲

●審査員コメント

- 「個別性の高いケアの実践」に加え、地域社会における看取りケアについて実践に移されたことの意義は社会的にも高く評価されるものであり、そうした姿勢に敬意を表します。(川島審査員)
- 発展した取り組みを実施しているからこそ、取り組みを行っている職員の方々の生の声を聞いてみたいと感じる発表でした。(佐藤審査員)



発表の様子



優秀賞を受賞した第二清風園

受賞者よりコメントをいただきました

最優秀賞

はなみずきホーム 桑原さん

自信を持って取り組んできた内容について紹介、さらに賞までいただくことができ光栄です。今後も周囲を巻き込みながら、“今”をより楽しく、より安心できる時間にできるよう取り組んでまいります。

優秀賞

東海清風園 松井さん

今回の結果は本当に今後の励みになりました。着実に実践し、確実に成果を出し、ご利用者の苦痛を和らげ、職員のやりがいを生み出し、私も経験と自信をつけ…。来年はたくさんの成果を報告するために一層頑張っていきます。

優秀賞

第二清風園 奥津さん

SEAP2022に続き、同じ看取りの取り組みで二度目の評価をいただけたことが、大変嬉しいです。今回の評価を励みに、現在の体制を継続しながら、より良い看取りのあり方を追求し、さらに発展させていきたいと思っております。

皆さまのご支援で広がる 取り組み・活動のご報告

日頃より温かいご支援をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。皆さまのお力添えでさまざまな取り組みを進めています。助成金や寄付金がどのように活かされ、ご利用者の笑顔や地域のつながりへと広がっているのか、その活動の一部をお届けします。



東京
善意銀行
「かみつぐ
助成金」

たちばなホーム(東京都墨田区) つながりを育む、「たちばなカフェ」への活用

2025年の5月から12月に、計9回のたちばなカフェを開催しました。助成金のご支援により活動を安定して続けることができ、特別養護老人ホーム・都市型ケアハウスのご利用者・重度障がい者・児童館のご利用者・大学生・地域の皆さまなど多世代が交流し、誰もがつながる居場所づくりを行いました。



テレビ朝日
福祉文化事業団
「介護美容」
助成事業

さんいくハイツ立花(東京都墨田区) 美容専門家による、 フェイシャルエステ体験

助成事業により、ご利用者の皆さまへ高齢者美容の専門家による、フェイシャルケアとマッサージが実現しました。プロの手による顔パックやマッサージに、皆さんとてもリラックスした様子で、施術後は「若返ったわね!」と喜びあう素敵な笑顔が見られました。



東京
善意銀行
「かみつぐ
助成金」

清風園(東京都町田市) 災害時に備えた ポータブル電源を整備

清風園は災害時、介護が必要な地域の方々を受け入れる福祉避難所となるため、助成金を活用させていただき、ポータブル電源を整備しました。

停電時でも携帯電話やタブレットの充電ができ、情報収集に役立つほか、在宅酸素を使用している方にも安心して過ごしていただける環境づくりにつながっています。



愛恵福祉
支援財団
助成金

赤ちゃんのいのちを守る プロジェクト(東京都墨田区) ドイツの母子支援を 学ぶ視察

2000年からBabyklappe(ドイツ語で「赤ちゃんの扉」=日本でいう「赤ちゃんポスト」)の取り組みのあるドイツを訪れ、妊娠葛藤相談所や内密出産など、母子の命を守るための取り組みを視察しました。母子の福祉の取り組みとしての在り方や、25年を経過したドイツ社会の今から学び得たことを糧に、これからは賛育会は歩んでまいります。



ご寄付をいただいた方からの応援メッセージ

東京都 H・S様

働きやすい環境を整えていただけるよう、少しですがお役に立てただけだと思います。

埼玉県 S・A様

悲しいニュースを見るにつけ、もどかしい思いでした。素晴らしい取り組みだと思い寄付させていただきます。

東京都 F・S様

母が大変お世話になりました。プロの温かいケアを受けて本人も安心して晩年を過ごせたと思います。家族も最後まで笑顔で接してあげることができたのも、スタッフの皆さんのおかげです。

神奈川県 H・E様

豊野町での地域貢献に感銘を受けました。ベビーバスケット活動をテレビで視聴し、応援の気持ちを伝えたく寄付いたします。隣人愛の精神に基づく法人運営に、わずかですがお役に立てればと思います。



皆さまのお支えに感謝いたします

2025年10月1日～12月31日までに下記の団体・個人の方々よりご寄付をいただきました。深く感謝申し上げます。
複数回ご寄付いただいた方も表記は一度とさせていただきます(敬称略 順不同)。

【 企業 】

学校法人 玉川学園
日本カルミック株式会社
新渡戸文化短期大学
公益財団法人 愛恵福祉支援財団
恵泉女学園中学・高等学校
熊本YMCA
株式会社要興業
株式会社大塚商会
株式会社ライズビルマネジメント
株式会社ビルネット
株式会社ネオキャリア
株式会社ニック
株式会社アメニティ
一般社団法人チーム結
ミヨン石鹸株式会社
テクバン株式会社
すみだパークプレイス
スズキ株式会社
すぐろ商店
ジャパンエレベーターサービス神奈川株式会社
ジャパンエアマット株式会社
日本基督教団 軽井沢南教会
国立聖書研究会
興洋海運株式会社
小松寿し
日本基督教団 信濃村教会
信州中野教会
太平三丁目町会
東海機材株式会社
日本基督教団 東京池袋教会
公益財団法人東京大学学生キリスト教青年会
PictureAgate合同会社
明治学院高等学校
有限会社大正胞衣社
日本キリスト教会 横浜海岸教会
理仁薬品株式会社

【 個人 】

愛智 直行
赤荻 佐和
有田 恵子
安藤 美智子
岩田 雅男
江口 洋一郎
大江 浩
太田 裕子
大塚 衣織
大和田 由紀
木口 圭子
倉持 登志子
鈴木 小百合
田中 邦子
谷口 博大
崔 美樹
寺田 正毅
中村 明子
平野 昭宏
平野 毅
平野 俊如
藤田 好夫
堀家 世司
向谷 美佐子
森重 勝
横井 伸夫
柏木 文代
大塚 由紀子
青木 直典
青木 譲
安間 てう子
五十嵐 康則
石井 美奈
石川 かよ
石阪 昌司
石田 悟
石田 寿満
市丸 未乃里
井筒 洋一
伊藤 紗也
伊藤 多恵子
井上 菜月
井村 美奈子
牛島 和夫
薄井 佳代
内山 瑛美子
宇山 和子
遠藤 仙子
大井 貴史
大内 実佳
大村 新吾
荻田 君江
奥津 亜季
落合 美英
恩田 勝
片岡 愛
形岡 暁生
川邑 恵子
木下 智文
木村 亮介
久保 マサ子
栗田 和好
栗山 政子
車田 克彦
黒川 純
古賀 節彦
小杉 ひとみ
小山 榮次郎
小山 哲司
齊藤 なをみ
坂口 茂
坂根 慶子
櫻井 謙次
佐藤 茂美

佐藤 茂美
佐藤 正一
佐藤 陽子
篠原 利好
柴田 光昭
柴沼 明
島田 茂
島田 恒
清水 利郎
東海林 吉良
杉本 米子
須藤 たかえ
住田 学
関根 義夫
高橋 雅二
高道 彰子
竹佐古 真希
武田 すぎ子
武知 鱒次郎
竹村 哲治
立原 美恵子
田中 梨菜
田村 千里
CHEN XI
月本 昭男
遠矢 充宏
鳥羽 ノリ子
富岡 幸治
中島 誠
中村 和郎
中村 基信
生井 知三
並木 信一
生川 鉄兵
西島 民子
西田 千佐子
西原 良信
野田 昌太郎
芳賀 慶治
萩ノ谷 克範
林 萬吉
兵藤 芳朗
平野 翠
福岡 正淑
福澤 尚実
福島 敬子
藤井 衛
古田 和彦
古山 武史
細田 牧子
堀内 靖
本多 三男
前田 太
増田 喜代子
眞鍋 裕亮
箕輪 ひろみ
宮崎 和貴
宮崎 裕子
村井 珠子
村木 源太
持田 侑宏
森 佐知子
森 良雄
森山 薫
柳沼 恵一
山形 秀夫
山添 仰
山田 公平
山田 登美子
山本 美智江
吉岡 伸泰
若松 康広
若山 賢三

匿名希望 94件

賛育会へのご支援のお願い

賛育会では、子ども食堂やオレンジカフェなど子どもからお年寄りまで、地域のすべての人に寄り添い、サポートする様々な活動を展開しています。

今後の地域支援活動継続のため、どうか私たちの活動にご賛同いただき、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト
サポーターを募集しています

詳しくはこちらをご覧ください

賛育会ホームページ
「賛育会へのご支援のお願い」
(<https://www.san-ikukai.or.jp/participate/>)



San-iku 通信

社会福祉法人 賛育会の
広報誌「さんいくつうしん」
San-iku通信 Vol.48 2026 冬号
編集:賛育会法人事務局 発行人:中村 基信 発行所:社会福祉法人 賛育会

賛育会後援会だより **さんいく**

賛育会後援会だより 2026年2月号・第115号
編集・発行人:小堀 洋志
(20260202-6450)

社会福祉法人 賛育会
〒130-0012 東京都墨田区太平3-17-8
URL <https://www.san-ikukai.or.jp/>

お問い合わせ
TEL:03-3622-7614

